

マキノ病院ニュース

整形外科部長就任の挨拶

少子高齢化と過疎化について思うこと

整形外科部長 谷口 一行

日頃より地域の皆様ならびに関係者の皆様には、当院に多大なる御理解と御協力を賜り、心より御礼申し上げます。

私は、マキノ病院に赴任して約16年が経ち、今までは整形外科医長として勤務していましたが、この度、整形外科部長を拝命いたしましたので、自己紹介を兼ねて、地域住民の方々に御挨拶をさせていただきます。

生まれは、高島市に隣接する長浜市の旧伊香郡で、小中高は地元小学校に自転車で通っており、大学は他府県に在籍していましたが、地域住民の方々に御挨拶をさせていただきます。

さて、昨今の日本の一番の問題は、少子高齢化と、人口が大都市部に集中することによる地域の過疎化だと言われております。高島市も、高齢化と人口減少が滋賀県で特に進行しており、2024年4月には高島市と甲良町が滋賀県の消滅可能性自治体に分類されました。マキノ町等も例外ではなく、少

子化のために、小学校の統合の話や、中学校の統合の話が聞かれています。私が住んでいる地域も同様で、私が通っていた頃の小学校は1学年20人、中学校は1学年5人前後に減少し、数年後には0人の年も出てくるため、学校の存続が危ぶまれている状況です。また、旧伊香郡には、2月頃に餅つき歌を歌いながら村の中を練り歩いて、神社にお供えをする“オコナイ”という祭り等、いくつもの伝統行事がありますが、餅をつく若者が減ったため餅は買うことになったり、祭りの期間も7日間から2日間に短縮されたりと、伝統行事の維持が厳しくなっています。

医療においても、過疎化や高齢化のために、加齢に伴う身体能力の低下で通院が困難

になったり、複数の持病を持ち健康的な生活が出来なくなつた人が多くなる等、多くの課題が山積しています。

このような厳しい状況の中で、地域医療の最後の要となるべく、マキノ病院は地域の皆様に安心して利用していただけるように、日々精進努力し、改善すべき点は改善し、少しでもより良くなるように職員一人丸となつて頑張っております。

診療科のご案内
内科・外科・小児科・整形外科・皮膚科・神経内科・総合診療科
肛門外科・泌尿器科・リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科
【救急指定・労災指定】【人間ドック・各種健診】

診療受付時間
平日 8:30 ~ 12:00 16:40 ~ 19:00 土曜日 8:30 ~ 12:00
滋賀県高島市マキノ町新保 1097 TEL 0740-27-0099
ホームページ <http://www.makino-hosp.or.jp>

ドクターコーナー



なります。また年齢とともに症状が良くなつていくことが多いといわれ、ご家族・ご本人がアトピー素因（アレルギーになりやすい体質）をもち、喘息・アレルギー性鼻炎・アレルギー性結膜炎なども併発していることがよくあります。

アトピーの患者さんでは保湿を含

での外用治療を必要以上に怖がり、湿疹状態のまま経過するほうが将来的にはリスクが高くなるので、適切にステロイド外用治療を行うことが重要です。皮膚を良い状態に保つための方法として「プロアクティブ療法」という方法が推奨されています。それは皮膚症状が良くなつても、

く、1週間から10日ごとくらいにステロイド外用をしっかりと使用することで病勢のコントロールをはかるのが長期的にみて良いといわれています。皮膚が良くなつたと思つて、すぐに外用を止めてはいけません。もちろんその間も保湿はしっかりと継続していきます。

新しくできてきており、ひと昔前に比べると治療選択の幅がかなり広がってきています。デュピクセントの注射は最初は病院で打ちますが、その後は家で自分でも打つことのできる薬剤で、2週ごとに皮下注射します。当院でも導入、治療は可能なくすりでも注射の打ち方などは病院で指導していただきます。治療効果は高いですが、薬価も高い薬にはなりますので、よく相談して治療を開始していただきます。

アトピー性皮膚炎の基本的な治療と最近の動向

皮膚科 片岡 照貴

日本には幼いお子さんを中心に、大人の方も含めて、多くのアトピー性皮膚炎（以下アトピー）の患者さんがいます。その特徴は皮膚の状態が良い時と悪い時を繰り返すこと（完解増悪を繰り返す）、左右対称にかゆみのある湿疹がみられます。年齢によって湿疹が出やすい部位があり、皮膚は乾燥しがちに

ある状態を放置していると皮膚のバリア機能が低下しているために、皮膚からのアレルギー物質の感作を受けやすく、年齢とともに、いろいろなアレルギー症状が次々とでてくる「アレルギーマーチ」を引き起こす事態になりかねません。ステロイド

ある程度の期間はステロイド外用薬を1週間に数回程度、継続して間欠的に塗る方法です。安定してれば、さらに塗る回数を徐々に減らしていきます。

慢性に経過するアトピーの場合、症状が良くなつても最終的にステロイド外用を完全に止めるのではな

く、中等度以上のアトピーの患者さんに「デュピクセント」という注射薬やいくつかの内服薬が